

令和 7 年度教員養成フラッグシップ大学推進委員会助言（参考）

東京学芸大学への助言

（総評）

大学や学生の実態と合致した取組が着実に進められており、自律型カリキュラムデザインに期待される 4 つの効果（学びの実質化、個別最適なカリキュラムの実現、学生の主体性、自律性の成長及びカリキュラムづくりを考える機会等）が確実にあらわれつつある。大学のカリキュラムと様々な教育体験活動との融合した学びをとおして、自分の成長の姿をえがき、学び続ける教師の育成に寄与していることが評価できる。

自律型カリキュラムデザインについて、履修状況と各種アンケートへの回答結果等に見られる成果や相関関係の分析をはじめ、今後卒業生も含めた多様な観点からの効果検証を引き続き行い、その結果をもとに必要な改善に取り組むことを期待する。

加えて、新科目開発実施において、担当する教員のすべてでシラバス開発に取り組み、複数の教員による授業実施における授業の質担保など、今後の教員養成を担う教員の意識及び指導観の転換に向けて、従来の FD にとどまらない効果的な取り組みについての検証にも期待する。

（さらなる取組等が期待される点）

- 全国展開や教職課程の見直しを見据え、特に貴学の実態に即した取組と他大学においても取り組むことができるもの、他大学で取り組む際に必要と考えられる要件を整理していただきたい。
- 新科目を担当する教員のみならず、すべての教員の意識及び授業変革により、既存科目にどのような変化が生じているのか、その効果的な連携の在り方等についての分析をお願いしたい。
- 大学のカリキュラムの履修や様々な教育体験活動をとおして、当初学生個々人が目指していた教師像や予定していた履修内容から変更を加える学生の割合や、その変更内容について広く分析をお願いしたい。
- データサイエンスに関する科目を他大学へ展開する際は、データサイエンスになじみのない学生にとっても自分で補えるような学習のサイクルが必要であることを鑑み、開発や展開等進めていただきたい。

福井大学への助言

(総評)

地域と連携した省察的学習を基盤とする理論と実践を往還させる教員養成システムを構築することで、講義中心から主体的・実践的な学びへの転換を進めていることが特徴である。

異学年協働学習の学びの形態について、様々な学年や専攻の学生との学びをとおして、多様な経験や知見を深めていることが見受けられた。

教員養成フラッグシップ大学のうち唯一の総合大学として、工学部の学生もフラッグシップ科目の履修を可能としている等工学部との連携が進みつつあることを確認できた。

(さらなる取組等が期待される点)

- 今後予定されている学生の資質能力に関する中間評価の公表のほか、学修成果の分析及び教育実習生及び卒業生も含めた成果検証を期待したい。
- 特に専門的な内容をまだ学んでいない年次の低い学生に関して、地域の子どもたちの協働探究活動（探求ネットワーク）を支える活動や学年・コースの異なる学生同士の協働学習等と、自らの実践を理論に基づき省察等するための基盤的知識や理論的背景とをより効果的に関連づけさせる方法についても整理いただきたい。
- 総合大学として、他の一般学部（開放制）の教員との連携等学内展開を迅速に進めていただきたい。
- 今後、開発科目をどのように学外に展開していくか、具体的な道筋を示されたい。

大阪教育大学への助言

(総評)

学長ガバナンスのもと、未来教育共創推進総括本部に置く各部のもとにユニットを編成し全学的な意識改革や意識醸成を図ることにより、チームリーダーや若手教員を中心とした多くの教員が参画するなど、大学が一丸となって取組を進めていることが評価できる。

また、学内のみにとどまらず、みらい教育共創館が産学官連携の拠点となり、先導的な教育課程の編成と実施に関するコーディネーション・コンサルテーション機能を果たしている。

特色である「ダイバーシティ教育科目群」における学びをとおして、「多様な児童生徒がいる」ことを理解するのみならず、「多様な児童生徒の視点にたつ」ことにより、学習者中心の視点を修得させていることは特筆できる。

養成する教員像(学校現場で担うべき役割等含む)を明確に定め、必要とされる資質・能力から科目やカリキュラムを再構築していく考え方は非常に参考になる。

(さらなる取組等が期待される点)

- 自己評価尺度による学習成果の測定、指導教員による実習等に係るアンケート、さらには今後予定されている調査結果比較等をとおして、引き続きフラッグシップ大学としての取組を更に改善していくための多角的な効果検証を行っていただきたい。
- 教科教育法と教科専門の教員が連携して授業がデザインされており、教育データの活用及びデータサイエンスに関する科目等において、実践(例:定量的なデータ分析)が意識されている等、カリキュラムの全体構造が優れている。今後は、カリキュラムの中に授業中の子どもの学びの様子や学習プロセスといった学習評価の要素を加え、定量的なデータ分析とつないでいく等、より発展したカリキュラムの在り方を検討していくことを期待する。
- 複数の学校種や教科の免許状が取得可能なカリキュラムを設けているが、学生にとっての選択肢や履修科目数が多くなる中で、どのような支援が有効であるかを今後整理していただきたい。
- フラッグシップ科目も含めた教職科目の他大学への提供について、引き続き積極的に進められたい。

兵庫教育大学への助言

(総評)

教員養成スタンダードを再構築し、先導的・先進的なカリキュラムの開発、省察活動等の取組が着実に進められているほか、計画に先行して取り組んでいる点が特筆できる。

また、学内のみにとどまらず、大学の教員養成フラッグシップ大学構想に参画する民間企業・大学・教育行政等の関係機関から構成されるコンソーシアム設立による全国的な教員養成ネットワークを構築している。加えて、開発した先導的教職科目の全国展開にあたり、教職課程コアカリキュラムのような目標群とシラバスや教材等を組み合わせたパッケージを作成することで汎用化をはかり、他大学において既にアレンジも許容した形で実装が進められている。連携FDを通じた協力体制を構築する等、他大学への成果の展開に向け、着実に事業に取り組まれていることも評価できる。

「STEAM 教育」に係る科目では、講義形式ではなく、学生が各自の学習課題に応じた”ものづくり”を行う実践的な授業を展開しており、授業と省察等をとおして、子どもの学びを見出す機会があることに気づきを得る等 STEAM 教育の指導者としての視点を獲得している点が特徴的かつ強みである。

(さらなる取組等が期待される点)

- 学生の省察的な学びのサイクルについて、どのように省察理解が深まっていくのか、その経過が外部の者にも分かる形で示されることに期待する。
- 開発科目によって興味関心の幅が広がるなかで、学生が自分なりの選択方法をどのように充実させていくかといった仕組みや支援について今後も検討されたい。
- 開発科目と既存科目間の連携・つながりの明確化が非常に重要となる。また、学生に学校現場のニーズも踏まえた必要な学びを効果的に提供するために、カリキュラム・オーバーロードの観点も意識した上で、既存科目との連携体制及び履修計画（履修順序及び年次含む）を整備されることを期待する。
- 次年度以降の教育実習においてフラッグシップ科目によって学生が身に付けた力の成果検証が望まれる。附属・近隣校等の教育実習先との連携を密にし、学生本人の自己評価を重視しつつ、大学と実習先との共通の調査項目を設定することが好ましい。
- 先導的教職科目のパッケージについての効果や実装可能性を継続して検証するとともに、全国展開を見据えた手引き等の策定を進めることが期待される。